

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

ホームページ

<http://shakatsusushin.cool.coocan.jp/>

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakatsusushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポル幡ヶ谷九〇四 電話/FAX(03)32299153・67  
振替 〇〇10019158431 労金 中央労金本店 No.1154163

購読料 月額 (郵送) 350円・メール 175円)

6カ月前納制

## 〈もくじ〉

### ■巻頭言■

国労70年の歴史と伝統を前進させる

全国大会 野佐根代議員の方針討論

野佐根 浩巳……2

今改めて「三池と向坂教室」に学ぶ(上)

— 灰原茂雄、塚元敦義、そして向坂先生 —

山下 俊幸……3

「高い山」資本論をよじ登る

— 勉強は原典で 歩みは遅くとも —

中澤 秀行……8

桜井勝延市長の歴史的責任を問う

— 福島第一原発事故の避難指示解除に当たって —

原発事故被害者相双の会……13

読者からのおたより……15

# 旬刊 社会通信

NO. 1224

二〇一六年九月一五日号

二〇一六年九月一五日発行  
(毎月一日・二五日二回発行)

## 国労70年の歴史と伝統の前進させる

全国大会 野佐代議員の方針討論（発言要旨）

### 「春闘」「賃金」 なにかを考え直す

第一八六回中央委員会では、「会社間格差」や「エリア別交渉」の議論をしながらも、企業意識を克服し、国労の統一要求、全国統一闘争の闘いに向けた意思統一がされたと思う。支部としても、3・10総決起集会など中央での様ざまな行動への参加を始め、二月、総決起集会を開催して職場からの春闘作りに向けた意思統一を行ない、隅田川貨物庁舎前や東京支社のある田端駅前で短時間だったが、春闘朝ビラ配布の取り組みを行なって来た。

今春闘では、貨物の一七年連続ベアゼロを阻止することはできなかったし、東日本では、昨年と同様に回答待ちにされて三月三一日に回答。会社は莫大な利益を上げながらも、昨年の約半額に抑え込まれ、残念な結果となってしまったが、総括をしつかり行ない、次の闘いの準備をすることが大切だと思う。

先の参議院選挙で、若い他労組の人は「役員にはいろいろ言われたが、どこにも投票しなかった。給料が上がるのは安倍の言っている事が正解だと思う。会社が儲かれば給料は上がりますよね！」と言っていた。労働者としての見方・考え方を学ぶ機会がない若者にとつて正直な声だと思う。

国労の中でさえともすれば、「会社間格差」の現状に目を奪われ、階級の見方ができにくくなっていると思う。そうであれば、二〇一七春闘は、この間の国労の春闘での闘いを踏まえ、「春闘とは何か？ 賃金とは何か？」再度考え直す必要があると思う。合わせて、若い他労組の人にも、春闘とは何か？ を伝える努力をして行きたいと思う。

要求を勝ち取るためには、力を発揮するためには、どういう運動、どうした闘いが必要で有効なのか？ 会社の回答待ちと「交渉重視」などと同じことの繰り返しにならないように、闘わない言いわけ探しをするのはやめて、前向きに議論と準備を進めべきだと思う。

### 業務委託は人件費削減

業務委託や外注化は人件費削減を主眼として進められ、労働条件・労働環境の悪化、安全・サービスの低下、あるいは偽装請負の問題を起こしている。関連会社で働く人たちの労働条件をどう改善していくのか？ 国労にどう組織していくのか？ そして業務委託拡大をどう食い止めて行くのがますます重要になってきている。

上野支部内で保線関係の協力会社にエルダー出向している仲間の奮闘を報告したい。その職場では、従業員が作業服を洗濯するのに、会社設置の洗濯機に毎回二〇〇円を支払って使用していた。若い従業員たちは作業から帰って来ると、洗濯機に作業服を放り込む。一日に昼と夜、作業が入っているので、最低二回は洗濯機を動かすこ

とになる。とつても料金負担になるし、これでいけば一年で新しい洗濯機が買えるほど払っている。これっておかしくないか！と話し合い、そうだおかし、となった。

会社に改善を求めたら無料になり、作業員の方からは良かったと感謝をされ、小さな事だが声に出す大切さを確認できた。しかし、すべてが簡単には改善にならない。

「経営が厳しい」何重もの搾取構造があり、下請け会社はどこから利益を出そうかと躍起になっている、これが委託会社の状況だ、と報告してくれた。

また、駅委託会社のJESSでは、退職者や病欠者が出るたびに要員補充が問題になり、転勤や助勤など、駅社員への労働強化で乗り切ろうとしている。このため「休みが入りづらい」「慣れない職場への助勤で不安」などの声が出されてきている。こうした事に対し、36締結者の権利を最大限発揮し、話し合いや、要求を掲げて取り組みを進めている職場もある。今後も、委託職場での問題を拾い上げ、国労の存在を大いに發揮していく事が職場改善や組織拡大に極めて重要と思う。

今春闘でJESSは「経費における人件費の占める割合」をベアゼロ回答の理由としているが、JESSの売り上げはJRからの受託料がほとんどであり、駅の売り上げはJRに吸い上げられてしまう経営構造を改善させ、五年に一回しか賃金が上がらないような制度を改善させなければならない。委託での矛盾を拾い集め、改善に向けた取り組みを進める事が、委託拡大阻止に繋がると考える。「JRに委託はなじまない」、この闘いを追求していく必要があると思う。

### 労働契約法20条を活かす

宮里先生からお話があったが、定年前と同じ業務でありながら賃金を下げるのは違法である、との東京地裁判決が五月に出された。この判決を武器として、まずは各エリアにおいて団体交渉で「賃金格差是正」を申し入れる。貨物や検修業務の仲間は業務内容が同じ事が多いので当てはめやすいのではないかと考える。

さらに、GS（グリーン・スタッフ）契約）社員あるいはJR関連で働く人たちに對しても、「有期雇用と無期雇用の不合理な労働条件の禁止」を大いに活かし、労働条件改善に繋げて行く必要がある。

国労70年の歴史と伝統をさらに前進させるため、精一杯運動することを申し上げて発言としたい。（野佐根 浩巳）

## 今改めて「三池と向坂教室」に学ぶ（上）

― 灰原茂雄、塚元敦義、そして向坂先生 ―

『社会通信』誌がこの十月をもって「紙」誌を廃し、今後はインターネットのホームページによる配信を続けていくという。『進路』時代からの読者であり、また、これまで数多くの意見や報告を投稿してきた者として、寂しく残念でならない。編集長の滝野さんとは、個人的にも親しくさせていただき「私の師匠」でもある。個人的に悩んだり、落ち込んだ時にも激励を受け励まされてきた。

『社会通信』誌が（ネットに）移行になる前に、現状の労働運動・社会主義運動をなんとか再建するために、私なりに考えてきたことをぶちまけようと思うに到った。

## 国鉄闘争

私は国鉄闘争に深く関わってきて、全国の仲間たちに国鉄闘争の総括運動を提起し続けてきた。国労の幹部にも何人か話したことあるが、真剣に受け止めてくれないどころか、「総括すれば国労はバラバラになる」という人さえいた。私は国鉄闘争の経験は日本労働運動の「宝の山」、「レアメタルの宝庫」と言い続け、われわれ自身も、滝野さんをはじめ数名で一年以上、分割・民営化前後の攻防や役員、清算事業団の実態、闘争団の苦闘、広域転勤者の声、支援共闘関係者など、各方面の当事者から報告を受けながら議論し、聞き取りも重ね整理してきたが、いざ、文章化の時点で行き詰ってしまい、その骨格について本誌（No.1108、No.1109、No.1119）で紹介するにとどめた経過がある。「総括すれば国労がバラバラになる」という意見には賛同できない。

総括議論は、仲間を批判することではない。自らがやってきたことを振り返り、謙虚に、自己批判的に整理し、我々の弱点と前進面、課題を次の闘いにどう生かしていくのかを明らかにする作業で、とてつもなく大きなテーマである。私が気がついたこととであるが、国鉄闘争を総括するには、どうしても三池闘争の総括「長期抵抗統一路線」を勉強しなおさなければならない。私も現在時間をかけて自分自身の国鉄闘争総括をまとめている最中である。

妻が二〇一三年六月に病に倒れ、それ以降続いている「老々介護」は予想をはるかに超える生活。今日もデーサービスに行つて機能回復訓練をしている。したがって、私の行動範囲も必然的に自粛するようになりがちだ。運動家を自認する私は、労働運動、社会主義運動に関する学習会には積極的に参加するよう心がけてきた。

とくに労働者仲間たちとの学習や交流は、運動家として生きていることが実感できる機会でもある。要請のある労働組合などには、今でも泊りがけで学習会に出向いている。この時ばかりは子供たちの協力を得ることにしている。

## 私の愛読書

参議員選挙の結果は改憲勢力が三分の二を超え、改憲も現実味をおびてきた。一方、安民法制の改悪などを受けて、市民運動が台頭し野党協力も進んできた。

しかし、労働運動、社会主義運動の視点から見ると労働者の状態は、貧富の格差は拡大し、「富める者はもう買うものが無くなり、貧しい者は節約する以外にない」状態で、高度成長期の「一億総中流」（？）は総崩れ。貧困が蔓延し、労働者階級の窮乏化はいっそう進み、失業、低賃金、自殺、犯罪、墮落が激増し、連日テレビのワイドショーで取り上げられ報道されている。私は運動に目覚めて以来、資本主義社会におけるすべての出来事を資本と労働者間の階級対立と捉え、時々の情勢に振り回されず、反資本の確固たる階級的視点を大切に、階級闘争路線を実践しようという心がけて

きた。

今日、労働者を取り巻く状態は、総評・社会党ブロックが崩壊し、労働運動・社会主義運動の後退が原因だ、と言ってしまったえばそれまでだが、今さら泣き言や言い訳を並べても何の解決にもならない。どのように立て直していくのか、どのように労働者を組織し、社会主義者を育てていくのか、その具体化が問われている。

私もそれなりに今日の政治・経済・労働について運動家の立場からある程度の勉強や研究をしてきた。「連合」はだめだ、新自由主義だ、グローバル化だと言ってみても、何をどうすればよいのか明快な答えは出てこない。私の愛読書は『共産党宣言』と『空想から科学へ』の二冊で、常に持ち歩き、とくに国労闘争の時は、国労本部のある新橋までの一時間少々この二冊を読んできた。しよせん、理論家でもなく、基礎的学力もない私が充分に理解したとは思っていないが、一八四八年に『共産党宣言』、一八七八年に『空想から科学へ』が発刊されているので、相当古い書物に違いないが、しかし私にとってはいつも新鮮さを感じさせてくれる。

最近、小林晃著「現代と『資本論』」（時潮社刊）を読んだ。小林晃氏は、これまでも『社会通信』誌で、マルクスの理論を精力的に提起してきた。今回出版された「現代と『資本論』」は、その総集編ともいえる。たいへんやさしく解説されているので、私のようなものでも充分理解できるように配慮されている。私はこの本をたいへん興味深く何度も繰り返し読んだ。本は赤線と私の書きで一杯だ。そしてその結論はマルクス、エンゲルスは決して過去のものではない。この歳になって、取りつかれたように改めて向坂逸郎先生の「マルクス経済学の方法」など先生の書物を数冊読んでいく。

### 三井・三池労組の歴史をたぐる

その結果かどうかは別として、実は最近、労働運動の現状を嘆くより、戦後日本労働運動はどのように発展してきたのか。体力だけが自慢の肉体労働者であった私が、なぜ、どうして三九歳で自ら会社を退職してまで、運動家として生きてきたのか、を振り返ることによって、何らかの答えが得られるかもしれないと考えるようになった。そこで、私は現状の日本労働運動の現状と戦後労働運動が合法化され全国各地で次々と誕生した労働組合との比較検討を試みることにした。

そこで、まず手をつけたのが、「眠れる豚」と揶揄されていた三井・三池炭鉱労働組合が日本最強の労働組合に発展する経過、運動の発展の歴史、闘いの教訓、そこには灰原茂雄氏、塚元敦義氏、そして向坂逸郎先生の並々ならぬ努力と協力があつたことを改めて感じ取り、書棚から向坂先生、灰原茂雄氏、塚本敦義氏の本を十冊程度引っ張り出し、乱読することで、何かのヒントを得たいと考えた。

京都の稲村守さんは二五年以上前になると思うが「京都コンピーター学院争議」に入るとき、酒をのむことを断った。その時間を読書に費やす、という話を当時、直接聞いたことがある。そして実践している。その後に読んだ本の数はとてつもなく膨大な数で、酒代より本代の方に投資していることになる。その点、私は相変わらずの大

酒飲みで、体の不自由な妻との夕食時には必ず晩酌し、一日の癒しの時間となる。また、時には友人たちと一杯飲むことも楽しいひと時である。

稲村さんは運動家であると同時に理論家でもあり尊敬する一人である。今回、私は稲村さんの真似をして本を読んでいるわけではない。

問題意識を持つと、ある意味必要に迫られ読み出したら次々と疑問と確信が頭の中を駆け巡り、止まらなくなっただけである。内容だつてほとんど理解されているとは言えない。その原因はこれまで脳味噌を鍛える努力を怠ってきたことと、基礎的学力のないことではないかたない。

### 偉大な指導者、灰原茂雄氏、塚元敦義氏の誕生

灰原さん 塚元氏は「三池を語る」の中で、「灰原さんが、よくこんなことを言います。『塚元さんとは事前にこまごまと打ち合わせしたことないけれど、なにかの問題で話し合ってみると必ず同じ意見になる不思議だ』と。私もそう思います。これはうれいことです」。これは二人が同じ目的をもつて、共に闘う同志としての信頼関係を如実に表現した言葉です。

灰原氏は一九一五年(大正四年)中国台北市で生まれ、戦前は鉄道省(後の国鉄、現在のJR)東京改良事務所に勤務し、戦中は中国の北京にある華北鉄道に転出。二年後橋梁技術者育成のために鉄道省の鉄道技術研究所に選抜され、東京に帰ってきたとき結婚し、一九四三年八月、研修を終え北京にわたろうとしたとき海軍に召集され、千葉県館山海軍航空隊に配属となつて、防空壕開設を技術指導。四五年敗戦をえて奥さまの里である三池に同年秋帰つた。

四六年春公成社という土木請負会社に就職。そこで三池鉱業所の工事に携わり、宮浦の副鉱長をしていた大森という人が、「三池鉱山に入ってくれんか。送気式井筒沈下法という工法で堅坑をほる仕事を一緒にやろう」と誘われ、四六年八月に三井鉱山に転職し、宮浦坑に仕操夫として入った。そのうち大森さんが三池鉱業所の企画室に栄転し、それにひっぱられて灰原氏は本社企画室(所長・栗木幹のブレン)に変わった。栗木氏は、後の三池闘争時は三井鉱山の社長で敵・相手方の大将であった。

灰原氏は一九四六年秋ごろから「三池政治文化研究会」(代表・樺島佐次郎、三池町郵便局長で早稲田大学法科出身、町の有力者で進歩的な人で、この人の呼びかけで会が出来た)の運動を仲間と立ち上げ活動していた。

向坂先生との出会いは、一九四七年一月一九日。「三池政治文化研究会」の第一回講演会「経済を中心とする日本の動向」というテーマで向坂先生が講演。会場の安照寺には一三〇人が参加した。この講演会の後、代表の樺島さん宅で遅い夕食を共にしたのが初めての出会いであった。

塚元さん 塚元氏は一九一三年(大正二年)熊本県玉名郡に生まれ、一九二八年(昭和三年)熊本中学を中退し、海軍に入隊。勤務地は長崎県大村航空隊で戦闘機のパイロット。一九四二年結婚。夫人は大牟田で小学校の教員。その関係で戦後大牟田に住み、

一九四六年一月一六日三池炭鉱に鉱員として入社。

向坂先生との出会いは、塚元氏は坑内ではなく、坑外の資材課で働いていたが、課長が従業員を呼び捨てにする。軍隊でも、「塚元中尉」とか「塚元大尉」とか、姓の下になにかを付けていた。若い課長が従業員を呼び捨てにするのはおかしい。もう一つの事件は、最愛の夫人の急病（肺炎）の時に病院の診断書がないことを理由に早退が認められなかったこと。「軍隊というところも、とんでもないところだと思っていたが、三池炭鉱は軍隊より悪い」、なんともガマンができなくなつて、大牟田で高校の先生をしていた友人に「こういう悩みをもっているんだが、なにかいい方法はないだろうか」と相談に行った。

湯村というその友人が「そういう問題を戦前から研究し、また実際にやつてそれゆえに、政府のご機嫌をそのうて、戦前は刑務所にも入つた人で向坂さんという人がいる。向坂さんは、もともと大牟田の生まれの人だが、終戦と同時に刑務所を出て、現在は九州大学に復職している。その人に相談してみてはどうか」ということだった。そこで、九州大学に向坂先生を訪ねたのが始まりであった。

**向坂先生との対話** 向坂先生は塚元氏の話に聞き入りながら、「それは難しい問題である」と前置きしつつ、「三池炭鉱には二万六千人もの労働者がおるそうだが、他の人も塚元さんと同じように困っているかどうか、しゃくにさわっているかどうか、聞いてごらん。聞いた上で他の人が困っておらん、しゃくにさわっておらん、こののであれば、それは塚元さんのわがままだから我慢せないかん。しかし、みんなも困っている、しゃくにさわっている、不満である、ということなら、そうした不満をどうしたら解決できるのか、みんなで話し合う中で、どうしたらいいかという結論がでてくるはずだし、ださなくちゃならんわな」という答えで、「率直に言つて私の期待とは大きく外れたものでした。なぜかというところに行けば、マルクスをよく勉強され、今日の実態についてもよく知っておられることだから、即座に、マルクスの『資本論』の何頁にこう書いてあるから、こうしたらいいだろう、という具体的な答えが聞けるだろうと期待しておつたのです。」

自分と同じ不満を持っている人がいて、話し合いをしようじゃないか、となると「三井に抵抗する、反発するというなら、もしそれが会社にわかつたら、今以上に問題になる、ひどい目にあう、下手をすればクビになる。」ということ、組合にも相談したが、答えは会社の言うことと同じ。困り果てて、翌年の三月に、また向坂先生のところへ相談に行った。

**「変わりもん」** 先生は、簡単にはいかないだろう、しかし、三池には二万六千人も労働者がいるのだから、その中には、ひとつやってみようじゃないかという、変わりもんがおるはずだ。そういう、変わりもんを探したらどうか」ということだった。結果的にはその後、半年かかって変わりものが八名見つかり、一九四七年（昭和二十二年）一〇月から、塚元宅で毎週話し合いが始まり、極秘でお寺を借りたりし、話し合いは

続いたが、不平・不満をいうばかりでも、話すとか気持ちが悪くする。

向坂先生の方から「どうだい、学習会をやりよるのかい、解決の方法がでたのかい」「いや、解決の方法は出ません。不平・不満を言うばかりです」。先生から「資本主義のしくみ、構造について理論的に理解しなければならぬ」という、さらに「勉強するにしても、『共産党宣言』とか『帝国主義論』など、何をやってもわからんぞ、どうせわからんぞ、ひとつ『資本論』をやろう。それも、一年や二年じゃなくぞ、五年か十年くらいはつづけてやらんと。それで週一回、向坂先生が大牟田に向いて三池の学習会がはじまった。」(山下 俊幸・つづく)

## 「高い山」 資本論をよじ登る

―勉強は原典で 歩みは遅くとも―

### 「どんな推理小説より面白い」

『社会通信』1215号で原野人さんが、1217号で小林晃先生が、『資本論』の勉強・研究を切実に訴えておられます。この大著を横に置き、ぼそぼそ勉強を続けている者の一人として、少しく記させていただきます。なお、1222号に荻輪泰臣さんが滝野さんの言葉として私の事を紹介されていますが、私の『資本論』は理解していると言うにはほど遠いのですが、しかしながら、向坂先生が私に言われた『資本論』はどんな推理小説より面白い!』という言葉が、少しく心に響く最近です。

出席できませんでしたが、この八月、高校の同級会の通知があり、高校入学式当日の赤羽誠校長の新生への短く力強い「祝辞」を思い出しました。それは、

三笠山に登るにも第一歩

富士山に登るにも第一歩

同じ第一歩でも、心が違う

というものでした。説明は不要でしょう。

高校一年時予期せずに、赤羽誠校長からは数学の教師の研修出張中の約一か月間、ベクトルの授業を受けました。鈴木茂三郎の名はその時初めて知りました。「青年よ、再び銃を取るな!」でした。後に知るのですが、赤羽誠校長(私の市役所入庁時の教育長)の父上は鈴木茂三郎の親友で、『木下尚江顕彰碑建立記念誌』の中の挨拶文で、このことに触れられています。)、茂三郎が松本入りする時は必ずと言ってよいほどお宅に立ち寄られたそうです。

『資本論』は富士山のように「高い山」ですが、赤羽誠校長の祝辞は、マルクスの『資本論』フランス語版への序文の一節である「学問には坦々たる大道はありません。そしてただ、学問の急峻なる山路をよじ登るのに疲労困憊をいとわない者だけが、輝かしい絶頂をきわめる希望をもつものです。」を思い出させます。

勉強するほどに本当に高いだけでなく、裾野の広さも『資本論』に感じます。「人類の知的遺産の集大成」だと思ふ訳です。1883年5月から十三年間に渡り、毎月一回の和氣誠先生との『資本論』研究会を経験した私にすれば、私の勉強の程度につ

いて言えば、本当はまだ山の裾野にもたどり着いていないのかもしれませんが。そして、勉強すればするほどに遠退いて行ってしまう『資本論』です。

## (一) 『資本論』と弁証法の関係

**商品交換の秘密** レーニンには次のように述べています。「マルクスは『資本論』のうちでまず最初に、ブルジョア社会（商品生産社会）のもっとも単純な、もっとも一般的な、もっとも基本的な、もっとも大量的な、もっとも普通な、人々が何億回となくでくわす関係、すなわち商品交換を分析する。分析は、このもっとも単純な現象のうち（ブルジョア社会のこの「細胞」のうちに）現代社会のすべての矛盾（あるいはすべての矛盾の「萌芽」）をあげます。それにつづく叙述は、これらの矛盾および社会の発展を（成長をも運動をも）、その個々の部分の総和において、初めから終わりまで、われわれに示す。

このような仕方がまた弁証法の一般の叙述の（あるいは研究の）方法でもなければならぬ（なぜならマルクスにおいては、ブルジョア社会の弁証法は、弁証法の特異な場合にすぎないからである）。「（弁証法の問題によせて）／岩波文庫版『哲学ノート』下 198頁）

レーニンはここで、マルクスはブルジョア社会（資本主義社会）の分析をするに当たり、なぜに「商品交換」を分析するのか、分析しなくてはならないのかを述べるとともに、この「商品交換」の中に、現代社会のすべての矛盾、あるいは矛盾の萌芽をあげます。これが出来ることを述べています。

商品交換の法則である「 $x$ 量商品A  $\parallel$   $y$ 量商品B」という価値方程式の中に、資本主義社会の全ての秘密が隠されていると言っているのだと思います。そしてかつ、「マルクスにおいては、ブルジョア社会の弁証法は、弁証法の特異な場合にすぎない」と言っています。これはたいへん重要な指摘だと考えます。

**価値方程式と平等思想** たとえば『資本論』を読みますと、商品、価値、貨幣、資本というように展開されてゆきますが、「 $x$ 量商品A  $\parallel$   $y$ 量商品B」（ $x$ 量の商品Aは $y$ 量の商品Bに値する）という価値方程式の中に、すなわち商品生産社会が発生し発展する中で、人間が平等であるという思想もが発生し発展してきたという事を、歴史的にも論理的にも見出すことも出来るのだと思います。『資本論』の中の次のような記述は、大いに興味をそそられます。

「生まれつきの平等主義者で皮肉屋である商品」（岩波文庫版第一分冊153P）、

「貨幣においては、商品の一切の質的差異が消失するのではあるが、同じように、貨幣の方でもまた、急進的平等主義者として、一切の差異を消滅させる」（岩波文庫版第二分冊230頁）、「資本は生来の平等主義者である」（岩波文庫版第三分冊336頁）等々。

このことは世界史を勉強するとき、例えば、労働者（男）の普通選挙権獲得の運動、次に女性の社会的生産活動の場への進出と女性の普通選挙権獲得の運動、総じて普通

選挙権獲得の歴史と照らして勉強してみるとわかります。

平等ということ、人間が平等であるとか、男女が平等であるという考え方なり思想は、「理想」の問題ではなく、「歴史的必然」の問題であり、商品生産社会、すなわち資本主義的生産様式の発展がもたらしたものだということ事に違いありません。平等の要求は、歴史的社会的な産物です。

**史的唯物論と『宣言』** さて、弁証法は唯物論と結びついてこそ、万能の思考方法なり思索方法となりうるのですが、その歴史への適応が史的唯物論であり、史的唯物論（唯物史観）により世界史を総括した書物こそが『宣言』であることであるはご案内の通りです。

中学や高校で「世界史」が得意だったと言う人がいます。誤解を恐れずに言うならば、『宣言』の理解の程度は「世界史の学力」を測る測定器のようなもののように思われます。1848年までの書かれた歴史を、岩波文庫版の本文（2007年改版）で60頁程度にまとめ、かつ歴史を総括しているのですから、この『宣言』に「芸術」を感じます。文章には、超名曲のリズムとメロディーを感じます。

そして唯物弁証法に立脚したからこそ、『資本論』と言う近代ブルジョア社会（資本主義社会）の経済法則を闡明した著作が著わされたのです。ですから『宣言』は、『資本論』の序文のように思えるのです。

## （二）社会主義は「理想の社会」ではない

**歴史の必然性** 社会主義社会は「人間平等の理想の社会」と言う人も、「平等悪の社会」と言う人もいます。しかし、自由主義社会とか市場経済社会とも言われる現代社会、すなわち資本主義社会⇨資本制社会が、善し悪しや理想の問題ではないように、もちろん封建制社会もそうですが、歴史的必然性の問題であり、歴史科学の問題です。地球が理想の形態をしていて、理想の運動をしているわけではないように、またそれが善し悪しの問題で無いようにです。

そこで、私たちが研究し、きわめようと努力すべきは、正しく次の事でしょう。

「この二大発見、すなわち唯物史観と、剰余価値による資本主義的生産の秘密の暴露とは、われわれがマルクスに負うところである。社会主義はこの発見によって一つの科学となった。そこでこの科学はこれについて、その細目と関連とをヨリ十分に研究しなくてはならぬ。」（『空想より科学へ』岩波文庫版63頁）

**エンゲルスの助言** そして、エンゲルスは史的唯物論（唯物史観）の勉強を志す人達について、次のように助言しています。「この先は、この理論を、二番せんじによらないで、その源泉について研究するようお願いしたい。実際にその方がずっと楽です。マルクスは、その理論が何も役割を演じないところでは、何も書きませんでした。特に『レイ・ボナパルトのブリュメール十八日』は、この理論の適用のまったくすぐれた実例です。同様に『資本論』にも多くの示唆があります。次には私の論文『オイゲン・デューリング氏の科学の变革』と『ルートヴィヒ・フオイエルバッハとドイツ

古典哲学の終末』をおすすめできるでしょう。これらの論文で私は、史的唯物論について私の知る限り最もくわしい説明をしました。」(「ヨーゼフ・ブロッホへの手紙」1890年9月21日付)新潮社版選集第4巻35頁、国民文庫版『資本論書簡』(三)216頁)

エンゲルスは自著の『反デュリング論』(「空想より科学へ」もあります)と『フオイエルバッハ論』を研究することを勧めるとともに、「史的唯物論について私の知る限り最もくわしい説明をしていると述べ、その前段で「二番せんによらないで、その源泉について研究するようにお願いしたい」と、原典で勉強するように要請しています。人類の歴史を、単なる物語から科学にした先達の助言の通りに、私達は素直に勉強すべきだと思います。エンゲルスは『経済学批判』を評した一文の中で「自然科学でないすべての科学は歴史科学である」(岩波文庫版『経済学批判』257頁)と言っています。

### (三)『宣言』・『資本論』に出会っていますよー!

高校教科書の「宣言」「資本論」 高校時代から現在も大切に使っていると言うか、利用している本が幾つかあります。それは学校での授業に使った「教科書」等です。地理、世界史、日本史、政治経済、そして関連した資料集や受験に使った世界史と日本史の参考書の類です。『宣言』・『資本論』との初めの出会いは、この世界史の教科書・資料集、及び受験参考書でした。

私が授業で使用した教科書『詳説 世界史』(山川出版社)の執筆者は、村川堅太郎・江上波夫・林健太郎の三氏で、資料集の『世界史資料・名言集』(山川出版社)は、江上波夫監修。当時江上氏は東大名誉教授、村川・林の両氏は東大教授でした。受験用の参考書として高校側で推薦してくれたのは『精説 世界史』(京大教授前川貞次郎著/数研出版)という本でした。

教科書『詳説 世界史』は、市民革命⇨フランス革命をテーマにした後に、「社会主義の台頭」という見出しで、ロバート・オーエン、サンシモン、フリーエ、ルイブランを空想的社会主義者として紹介した後が続いて、次のよう記しています。

「19世紀中葉になると労働運動はますます盛んになった。この労働者階級の進出を背景として、社会主義を新しい世界観と経済学説の上に立脚させたのはドイツに生まれたマルクスであった。かれはエンゲルスと共同して学説を發展させ、全世界の労働者の団結を叫び、社会主義現実の第一歩は労働者階級の政権獲得であることを力説した。国際共産主義の原理は、1848年マルクス・エンゲルスによって発表された『共産党宣言』に示されている。」と。

そして「国際的諸運動の發展」という項では、「まず最も国際的傾向をもったのは社会主義の運動である。1864年各国の社会主義者によってロンドンに第一インターナショナルが結成され、マルクスがその指導にあたったが、バクーニンらの無政府主義者との対立が激しく、1867年に解散した。しかし1889年パリで第二インターナショナルがつくられ、第一次世界大戦に至るまで国際社会主義運動の中心とな

った。このように国際的協力によって各国の社会主義政党も次第に発展し、ドイツの社会民主党、フランスの社会党、イギリスの労働党などはそれぞれの国の議会に勢力を占めるに至った。…。」と記されています。

又、19世紀の文化を記した節の中には「哲学」という項があり「ドイツ観念論はフイフイテ・シェリングを経て弁証法哲学を唱えるヘーゲルに至って大成された。…。ヘーゲルの死後分裂した学派のうち左派を代表するフォイエルバッハの唱えた唯物論はマルクスに継承された。マルクスはヘーゲルの弁証法を改造して、**弁証法的唯物論**を唱えた。」と。そして次の「歴史学と社会科学」という項では「マルクスは哲学から経済学の研究に進み、**資本論**によってマルクス経済学を打ち立てた。」という記述があります。(以上ゴシックは原文のママ)

さて『世界史資料・名言集』には『共産党宣言』がまるまる一頁使って紹介されています。『宣言』冒頭の「今日まであらゆる社会の歴史は、階級闘争の歴史である。」から、最後の下りである「万国のプロレタリア団結せよ。」までが抜粋で掲載され、出典として『共産党宣言』(大内兵衛・向坂逸郎訳 岩波文庫)が記され、欄外に『宣言』の書かれた経緯、内容の端的な要約も記されています。

そんなわけですから、高校時代に「世界史」を勉強し、大学受験勉強をそこそこやった人は、この辺の記述を覚えておられると思われまます。

私は次の段階として、実際に書店で『宣言』や『資本論』を手にするようになるのにも何年もかかりましたし、その後購入するのも何年か要しました。その上こうした作品を読み始めるようになるに、それなりのインパクトのある出来事と何回も遭遇しました。

#### (四) 勉強するには「本」が必要です！

良い機会ではありませんか！ 今年(2016年)は『フォイエルバッハ論』刊行から百三十年です。来年(2017年)は『資本論』第一巻発刊百五十年です。まずは購入しましょう。文庫本を買えぬ人はいないでしょう。文庫の新刊が高いという方、あるいは版切れしている場合は、岩波文庫の古本でけっこうではないですか！ 学生時代に、何人かの先生に書店や古本屋との付き合い方を教わりましたが、自分の興味の書籍を手にするための術を知っていることも大切です。

「まなぶ書房」(電話 06-6721-3635)は、こうした文献に詳しく、ストックも豊富で、相談に応じてくれる古書店でして、皆さんにご紹介させていただきます。紹介に当り、店主勢石さんの承諾を得ていただきます。ご利用ください。

#### (五) 堺利彦、山川均、高島素行と徳田安儀

日本における『宣言』、『空想より科学へ』、『資本論』等の紹介、すなわち翻訳・出版等の歴史、その苦難の歴史を知っただけでも、これ等の著作を読んでみようと言う気持ちになると思います。

『宣言』、『空想より科学へ』を日本で初めて翻訳した堺利彦、「研究資料・マルクスの『資本論』（勁草書房／山川均全集第一巻所収）」として、初めて『資本論』の内容を原典に即して紹介した山川均、本当に頭が下がります。

堺利彦訳の『宣言』（幸徳秋水との共訳）ですが、新しいものでは2008年に榊アルファベーター社が発行した「彰考書院版」による『共産党宣言』があります。巻末のアルファベーター社の中川右介氏による「ある左翼出版人の略伝―2008年版出版にあたって」は、翻訳者のみならず出版人もこうした書籍を世に出すには、本当に命懸けであったことがわかります。

「反原発」の菅谷昭松本市長は信州大学医学部助教授を辞して、ボランティアでチエルノブイリへ行っていた甲状腺外科医、社会派の医師です。菅谷さんの信州大学医学部在学中の泌尿器科の恩師は、松本交響楽団団長でオーボエ奏者の小平潔先生（泌尿器科）だそうです。そして、小平先生の信州大学医学部での泌尿器科の恩師は徳田安儀先生です。私にとっては、面白い繋がりです。

徳田安儀先生の名前は、向坂逸郎訳の『資本論』を読んだことのある方はご存知だと思います。岩波文庫版旧訳、岩波書店記念版、そして向坂先生の信州松本を綴った随筆にはたびたび登場する医師です。「私の腎臓は：腎臓結石という石をつくる」（『労働者の世界観』36頁）と言う向坂先生の松本での主治医でした。

徳田先生と懇意であった百瀬嘉郎さんによると「徳田先生は高島素行訳の改造社版『資本論』（一九二七〜二八年発刊）の翻訳を手伝われた。」と言うことです。

（二〇一六年八月二十日 中澤 秀行）

## 桜井勝延市長の歴史的責任を問う

―福島第一原発事故の避難指示解除に当たって―

桜井勝延市長は二〇一六年五月二七日、南相馬市小高区を中心に出されていた政府の福島第一原発事故による避難指示解除に同意し、避難指示は本日解除された。多くの住民の命と健康に対する懸念を押し切つてなされた今回の決定に対し、私たちは以下の理由により、桜井市長の歴史的な責任を問い続けることを声明する。

### 1、住民の叫びを真摯に受け止めず、事実上切り捨てたこと

桜井市長は二〇一五年十一月の市民説明会で、最低、①「宅地周りの除染」が完了すること、②小・中学校の教育施設環境が整うこと、を解除時期決定の条件として公約した。

本年二月と五月に開かれた政府主催の市民説明会では、これら二点が達成されていないことに加えて、①これまでなされた除染でも効果がないこと、②農地・農道・森林の除染が完了していないこと、③学校周辺の放射線量にも不安があり、子どもを帰らせられないことなど、実態に基づく「時期尚早」の声が圧倒的だったにもかかわらず、桜井市長は、「あそこ（説明会）では反対の人しかしゃべらない。」「サイレントマジョリティーは全く逆」「解除を一年遅らせたところで、商店や病院が震災前の状

態に戻るわけではない」（三月五日付毎日新聞インタビュー）などと述べ、住民の悲痛な叫びに真摯に耳を傾けなかった。そればかりでなく、五月の最終説明会の時点で、自ら公約した「宅地周り除染」が四九一一戸中四二五戸残っていたにも関わらず、「同意を待っていたら何時になるかわからない」と述べるなど、最低限の約束すら反故にしましたま、最終説明会のわずか五日後、解除に同意した。関東など避難先での説明会は、この決定後に行われた。

以上の事実は、桜井市長が多くの住民の腹からの叫びを切り捨て、政府方針を優先し、それに従ったことに他ならない。

## 2、住民の命と健康を放射線の危険にさらす選択をしたこと

桜井市長は本年二月一七日、東京の外国人特派員協会で行った記者会見で、南相馬市の放射能の汚染状況について、「国の目標よりも下回っていると報告するところが多くなってきている。けれど若い世代が戻らないのは、放射線教育を全く行ってこなかったのが原因だ」との見解を表明した。

政府の避難指示解除の物差しは、年間追加被ばく線量二〇ミリシーベルトである。これは日本の現在の法律で一般人の立ち入りが禁止されている「放射線管理区域」の四倍に当たる。福島県の健康管理調査では、すでに一七二人の子どもたちに甲状腺がんが見つかっている。チェルノブイリ法で年間五ミリシーベルト以上を強制避難区域としてきたウクライナやベラルーシでは、三〇年を経たいま、子どもをはじめ、あらゆる年齢層で深刻な健康被害が生じていることが報告されている。また、放射線に対する子どもへの感受性は大人の一〇倍に達することも通説になっており、南相馬市が昨年行った意識調査でも子育て世代の八割以上が「帰れない」と言っている。

桜井市長の対応は、このような放射線被害の常識ともいうべき最近の知見をも黙殺する政府方針を無批判に受け入れているばかりでなく、これを「放射線教育」に転嫁して、住民の命と健康をさらす政策に同意した責任は逃れられない。

そこには、幾世代にもわたる健康と命への影響を否定できないという、厳粛な事実に対する謙虚な姿勢はない。そればかりではなく、二〇一四年に原町区の特定避難勧奨地点の解除を容認し、現在、東京地方裁判所で争われている経緯に対する反省も伺うことはできない。

## 3、被害者切り捨ての政府政策を加速させる役割を果たしたこと

政府は現在、二〇一七年春までに帰還困難区域を除く全ての避難指示を解除し、一年後に賠償も打ち切って、「福島原発事故にケリをつける」ことを政策目標にしていることは周知の事実である。これは、東京オリンピック・パラリンピックから逆算して被害地・被害者を切り捨てていく「行程表」であることは明らかである。

これまで解除された避難指示区域で最大の住民を抱える南相馬市の今回の解除は、この政策に弾みをつけ、「解除ラッシュ」ともいうべき事態の引き金になっている。さらに、桜井市長は先に挙げた外国特派員の記者会見で、「除染で出た汚染土や廃棄

物の再利用を真つ先に唱え、ようやく国もそういう方向に踏み出しつつある」と誇らしげに語っている。これに呼応するかのように環境省は、八〇〇〇ベクレル（kg）以下の汚染物を公共事業に活用するという方針を打ち出し、南相馬市は率先して実証実験をはじめるとしている。

桜井市長が、かつて反対闘争の先頭に立った原町区大甕地区の産廃処理場近くの田んぼは、いま、広大な除染廃棄物の仮置き場となり、黒いフレコンバッグが累々と積み上げられている。

「脱原発都市宣言」を誇り、「脱原発首長連合」の代表世話人に名を連ね、原発再稼働に「怒りを覚える」と語り、「われわれ現場で政治を預かる者にとつて一番大切なのは、市民の命なんですよ。命あってこそ暮らしが成り立つわけですから、命を危うくするような政策は推し進めるべきではないというのが私の考えです」という発言（前記記者会見）との間の、深い溝をどう説明するのか。まさに「命を危うくするような政策」を加速させる役割を果たした責任もまた、歴史的な審判を免れない。

二〇一六年七月二日 南相馬市の未来を憂える市民有志一同

（世話人 村田 弘、 国分 富夫、 横田 芳朝、 志賀 勝明）

（『原発事故被害者 相双の会』No.51』二〇一六年八月一日発行）

## ◇ 読者からのおたより ◇

**伊方原発再稼働反対闘争** 左は、酷暑の中、二度にわたり滋賀から参加いただいた若狭の原発を考える会の高瀬さん（さいなら原発・びわこネットワーク）の貴重な報告です。（稲村）

「伊方原発再稼働反対現地行動報告 10日夜のフェリーで出発。11日9時半 原発近くの球技場駐車場到着。前回と同じく車両が規制され、許可された車数台が何往復もしてゲート前へ。午前中ゲート前集会、参加者100人余り。午後は伊方町役場周辺デモ。12日朝6時からゲート前集会、参加者120人。9時起床。昼食休憩なしで九町（役場西3kmほどの集落）でデモ。警備は先月より一層厳しく、かまぼこ車だけでも30台はいたでしょう。愛媛県警だけでなく、兵庫からも広島からも。中身のない威嚇と無表情。やり取りしていると、私たちは馬鹿ですと聞き直る輩も。高浜原発再稼働の時に比べると、人口が関西よりずっと少ない四国のほうが参加者が多い。原発周辺の町からの参加者が中心で、地元の反対運動の力強さを感じました。

12日、ぼくは8時半ごろから車での送迎を命じられ、集結場の球技場で待機していると、愛媛から高知から、フェリーで大分・鹿児島からなど、断続的に11時過ぎても人々がやってきました。

12日午後の九町でのデモは、連日暑さで参っているのも拘らず、さらに昼過ぎの暑い盛りにもめげず、70人ほどが3組に分かれ大きな声をあげました。九町では、原発建設時に小学生が同盟休校し、役場までデモをしたそうです。その人たちは現在50〜60代でしょう。

昨年夏、伊方町で地元の人たちがアンケート調査したところ、再稼働賛成が25%、反対が56%だったのは、このような過去の実績が生きているのでしょうか。12日遅い昼食を摂りに八幡浜港近くの道の駅に寄ると、地元のテレビ局の人が取材していました。何の取材か聞くと、原発再稼働の賛否を聞いていると、電力料金が下がるなら賛成、というような声を放射したいが、反対の人ばかりと言っていました。この人に限らず、ゲート前で何人かのメディアのひとたちと話す、皆さん、福島を検証もできていない、避難計画は無意味、電力会社のコマーシャルはけしからん等々、新聞記事やテレビの報道には反映されていない面がありますが、前線の記者は皆さん強い反対の意思を表明されていました。今更ながら、俺まず・弛まず・諦めず、闘いを継続する意思を再確認出来ました。

ゲート前での数多くの「若狭の家」の旗を映像で見られた方も多いことでしょう。アメンバーデモの必要性も再認識しました。フェリーは雑魚寝の席しかなく、宿では4時半起きだったし、まだ頭がぼんやりしているの、書き落としがあるかもしれせん。高瀬元通（二〇一六年八月十四日）

**展望と希望を見失わず** 8月22日付ご丁寧なご連絡拝見いたしました。預り金は返金不要でありカンパします。カンパを前提に送金していただいたのに、当方の不注意でメモもせず大変失礼しました。アナログ人間である私も、4月15日号(No.1214)の「お知らせ」により寂しい思いもしながらHPをアップし拝見したところです。長年にわたり紙媒体による闘いの皆を築かれましたことに深く敬意を表します。11月1日よりHPだけになる由、情報伝達手段の変化も通信技術と社会情勢の変化の波が押し寄せた結果なのでしょう。ともあれ、新たな段階で健康に留意され、HP上から鋭い視点で引き続き情報発信してくださいますように、これからも活用したいと思えます。

さて、私も自治体職場を定年となり間もなく10年、2町歩の米を作りながら社民党運動、勤労協運動、朝鮮初中級学校支援運動、市職労退職者運動などに励むとともに、会津若松市内の闘う仲間とともに、会津地区労働運動研究会を組織し事務局を担って凡そ6年。東日本大震災と福島第一原発爆発事故による一時中断の時期はありましたが、ほどなく再開。「共産党宣言」や「賃金、価格、利潤」などの古典に始まって、時代の情勢に合った課題も取り入れながら、現在は向坂逸郎「労働者の世界観」を学習中です。市内の労働組合にも呼びかけ、テキストが変わるたびに単組オルグし、中央講師も呼んだり。目的は若い仲間を誘い活動家づくりの一環とすること、単組を超えて交流しながら学ぶ機会づくりなどです。その中で私は、私自身のものを見る目、長いスパンで見ることでできるようなにしたいと思っています。若い仲間も参加していますので、大いに刺激にもなるのですが、社会党・総評運動と地域共闘の経験のない若者が増えていますので、押し付けにならないよう経験を含めどう伝えていくかも課題です。政治的社会的情勢は一見悪化の一途を辿っていますが、展望と希望を見失わず、ともに頑張っていきたいと思います。(福島県会津若松・K)

**若い世代に思いを託す** ごていねいなご連絡ありがとうございます。カンパはいろいろありますが、おこがましい額ですが、返金していただかなくて結構です。長い間、貴重な情報を送り続けていたいただきありがとうございます。日々、恐ろしい社会になっていくようで、気が沈みますが、人間を信じ、若い世代に、思いを託したいです。(神戸市・T)

**弥次喜多道中・第四弾** 通信 8月15日号：「弥次喜多道中・第四弾信州松本編(上)」今回は中澤秀行さんの博識振りと、わが家に届く絵葉書の由来を知りました。「おでん」大好きなのは大根とはんぺん。汁は後に飲みますねえ。松本城、まだ大久保社宅に居た頃、毎年恒例になっていた八家族旅行会で行きました。懐かしく思います。「へぼ追い」という言葉を知ったのは何十年前に当時読んでいたマンガ「エースをねらえ」：テニスが題材の中に出てきたのを思い出しました。耳馴れない『お菜洗い』の意を知り、また、『手にひびが切れる』とは、現代人は解らない事でしょう。私も小さい時よく「ひびが切れ」ていました。(東京・兼子千栄子)

**「もう年だ、年だ」** 残金カンパ、長い間感謝！ 11月からはHP閲覧させて頂きます。「もう年だ、年だ」などと言わないで(No.1222の3頁)。ご健康でこれからもご指導を！(名寄・小田正彦)

**雨、雨、雨の農作物** いつもありがとうございます。組合から離れ何もすることがなく、通信を見るのが心の拠り所です。預り金返済についてですが、送金しなくて結構です。何かに使ってください。北海道に帰って来て、三ヶ月が経ちますが、雨降りが多く、台風3度の直撃もあり、楽しみで作っていた野菜も腐ってがっかりしています。農家の人は大変です。

東京で過ごした十八年、やれなかった趣味を北海道に帰り、心行くまでやろうと思っておりましたが、なかなかやらせてもらえません。これからは秋アジ釣り(鮭)の時期。台風で海も時化て、釣りになりません。うまくいかないのは、労働運動も同じですネ！ とにかく元気で過ごしております。九月三日の三支部交流会には、ワインを送りますのでお楽しみに！(北海道池田町・小原稔)

**心配** 一週間で3度の台風到来です。幸い音威子府は被害も少なく済みましたが、道内各地では大変な状況です。心配なのは、今回の農業被害に加え、春先の天候不順で、農産物の高騰、とりわけ豆類の高騰が心配です。場合によっては、音威子府羊羹も今の価格では売れなくなってしまう。農家の補償はもちろんです。農産物の高騰など国民生活のことを政府は考えてくれるのでしょうか。九月から変更(送本からメールへ)一件よろしく！(おといねづぶユニオン・杉山均)

**雨降らず** 残暑お見舞い申し上げます！ 雨も長く降らず、野菜・果物も水を欲しがっています。前納金はカンパにします。長い間ありがとうございます。右傾化した全通運動に一石を投じたためにも多くの事に役立ちました。現在は社民党運動に係わっています。物足りなさも感じます。パソコンにためつこが好きでなく、持ち歩ける・何時でも読めるペーパーは重宝しましたが、今後はホームページ活用しようと思えます。御健勝をお祈りします。(鹿児島・N)

**行動の指針、頭の整理** 毎号行動の指針、あるいは頭の整理に読ませていただいています。今回前納金の返済についてご連絡いただきましたが、少額ですのでホームページ維持のためのカンパとさせていただきます。今後もよろしくお願ひします。(栃木・O)